

天城小だより



全国学力学習状況調査から

4月18日（木）に「全国学力学習状況調査」を実施しました。これは、文部科学省が調査対象として全国の学校における小学校第6学年の児童と中学校第3学年の生徒を対象に行った調査です。第5学年までの学習内容の定着状況を調査が行われ、令和元年度調査より、例年行われている国語科と算数科の主として「知識」を問うA問題と、主として「活用」を問うB問題から、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となりました。また、合わせて、学習意欲・学習方法・生活習慣に関する意識調査も実施しました。

【 調査の概要 】

1 教科に関する調査 出題範囲

調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則出題

2 内容

・「知識」「活用」を一体的に問う問題

国語・算数：身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・理解などを見る問題に加え、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などにかかわる問題を出題

・質問紙調査

児童質問紙：調査する学年の児童・生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

学校質問紙：学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

調査結果の数値に一喜一憂することなく、本校の成果や課題を整理し、児童への指導や学習状況の改善に役立てたいと思います。また、各児童の学力や学習状況を把握し、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげていきます。

本校の全国学力学習状況調査結果

1 学力調査の結果から

算数、国語とも、国や県の平均正答率を上回る結果となりました。

	よくできていた問題	課題となる問題
国語	○目的に応じて文章全体を概観して読む。 ○自分の考えを明確にして読む。	●同音異義語。漢字の書き（たいしょう）正）対象 誤）対称 ●目的や意図に応じてまとめて書く。
算数	○棒グラフをから資料の特徴や傾向を読み取る。 ○減法に関して成り立つ計算。 ○伴って変わる二つの数量。	●示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。

【国語】

「読むこと」の領域では、正答率が県（83.8%）全国（81.7%）の平均点に対し、本校（87.5%）と高く、学校での読書、家庭読書など積み重ねが成果として表れていると考えます。

漢字の書きについて、同音異義語の問題が出題され、誤答が多かったようです。意味と正しく理解するとともに漢字の練習を継続して行い、文を書くときに意識して漢字を使うことで、漢字の正しい選択が行えるようになります。今後、漢字テスト等で確認をしながら学習をすすめていきます。

【算数】

各設問でおおむね県平均を超えました。小数、分数の乗除など、高学年で学習する計算ができています。今回、文章問題の読み取りが不十分なため正しく立式し、解を導けないようでした。計算力を継続して付けるとともに問題を読み取る力、活用する力を育てていきます。

国語、算数ともに、県や全国平均を上回り、バランスよく力が育成されていますが、文章の読み取りや、根拠を記述する問題に課題が見られます。「思考力」「表現力」の向上に向け、自ら考え、表現する学習活動を充実させていく必要性を感じています。

2 児童質問紙の集計から、特に顕著な表れがあるもの

A 先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで説明してくれる。 …あてはまる	：本校67.5%	県60.8%	国59.5%
B 学校のきまりを守っていますか。…あてはまる	：本校65.0%	県45.5%	国46.7%
C 将来の夢をもっていますか。…あてはまる	：本校75.0%	県65.7%	国65.9%
D 地域行事に参加している。…あてはまる	：本校80.0%	県42.9%	国37.2%
E 学校でみんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組みうれしかったことがありますか。 …あてはまる	：本校92.5%	県44.0%	国45.8%

Aの設問「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで説明してくれる。」の項目が本校は、全国・県と比べ高い数値になっていました。学習する上でまず学習内容を理解することが必要です。分からないところをそのままにせず、友達や先生にすぐに聞き、理解することはとても大切なことです。また、B、C、Dの設問では、規範意識の高さ、将来の夢、地域行事への参加に関する設問に関して、天城地区の子どもたちのよさが顕著に表れています。

「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」という設問に対し、あてはまると答えた児童は、全国（58.7%）・県（56.0%）に比べて本校（62.5%）と多く保護者の皆様のおかげでリズムのよい生活を送ることができていると推察します。

Eの設問では、みんなで話し合い協力して活動している様子が分かります。「仲間で話し合い協力することで成長していく」ことのよさを子どもたちが日頃の生活の中で感じていることが分かります。

ただし、課題として「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という設問に対して、全国（30.8%）県（33.1%）に対し、本校の回答は（25.0%）とやや下回りました。自主学習を活用しながら予習・復習の習慣が身に付くように支援していきます。

3 今後の取組について

- ① 本年度は月ごとに、運動、読書、学習と集中した取組を行っています。また、効果を考察し、より充実した内容になるよう見直しを行います。授業において、身に付けた知識・技能を活用する場を設定し、思考力、表現力の育成を図ります。
- ② ほめほめカード、家庭読書の日の継続、おたよりの発信など、保護者の皆様との連携を通し、家庭学習、道徳教育の充実を図ります。
- ③ 子どもの生活習慣については、今後とも保護者の皆様と協力して取り組んでいきます。知・徳・体の調和がとれた活力ある子どもの育成を目指します。

文責 横山直也